

## 追悼 『伊勢谷 修氏を偲んで』

第三支部理事 庭田 清隆

平成 25 年 10 月 8 日 埼玉県診療放射線技師会会員の伊勢谷 修氏が逝去されました。(享年 62 歳)  
故人のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

伊勢谷前技師長とは 32 年間のお付き合いであった。当初、氏とは業務が異なり、病院内で親しく会話することは少なかったが、お互い部門運営に携わる立場となり、理想の大学病院放射線部門の実現を目指し親交を深め、得難い友人となった。

氏は北海道江差の産、邂逅当初は長躯大声・性状果敢・頑固一徹にて少々戸惑ったが、杯と議論を重ねつつ人柄を知るに連れ、親しさを深めた。常に表裏なく豪放磊落、人と仕事とお酒と囲碁と家族を愛する、江差の鯛のように噛めば噛むほど味の出る人であった。本学の国際医療センター開設に際し、患者中心の医療実現のため全身全霊を傾け奮闘した日々は、準備委員としての自信に溢れ、厳しくも充足していたことと思う。今日、氏の強い思いは、日高の地に大輪の花を咲かせて、そこにある。

部門運営に強い信念と先見性を持ちながら、優しい笑顔で人と接しつつ「俺がやらなければ誰がやる」との決意を滲ませ、技師長として活躍された日々、お見舞いに伺い、お互いに「ジージー」として孫自慢をしたのが昨日のように思い出され、時とともに寂寞たる思いが募る。

伊勢谷さん。長い間、本当に、本当にお疲れ様でした。天国で大好きなお酒を飲みながら、ゆっくりお休み下さい。伊勢谷さんのご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

埼玉医科大学病院

和田 幸人

私が初めて伊勢谷さんとお会いしたのは、今から 31 年前に埼玉医科大学付属病院（現、埼玉医科大学病院）中央放射線部に入職し、放射線治療部門に配属となった時でした。

最初の伊勢谷さんの印象はとても背が高く、そして少し厳しく、難しそうな方だなと感じたことを覚えています。しかし一緒に働くにつれ、とても優しく気さくな方であることが分かってきました。また技師 1 年目である私に対しても、放射線治療業務を基礎から丁寧に指導して下さいました。

その後、8 年前に新設病院である国際医療センター開設準備室委員に共に任命され、様々な意見交換をしたりご指導を受けたり、めまぐるしい 1 年を過ごしました。

そして、平成 19 年 4 月に国際医療センターに勤務となってからは、管理職としての部門運営における心構えや、対応についてご指導を頂きました。まだまだ多くのご指導を頂きましたのですが、あまりにも早い悲報に残念で仕方ありません。

最後に、このように生前の伊勢谷さんからは多くのご指導を受け、多くのことを学ばせて頂きましたことを心より感謝するとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

埼玉医科大学国際医療センター 吉村 保幸

伊勢谷 修氏のご霊前に埼玉医科大学総合医療センター中央放射線部を代表し、謹んでお別れの言葉を申し上げます。

予てより体調が優れないことは伺っておりましたが、これ程早くお別れの時期が来るとは思ってもおりませんでした。

伊勢谷前技師長とは埼玉医科大学病院時代に核医学検査で苦楽を共にした中で、私が総合医療センターに異動後も、様々な面で叱咤激励いただき感謝の念に堪えません。頃年、互いに立場が変わり意見違いから仲違いになることもしばしばで、そんな折、酒の席では「理想ばかり追いかけるな、現実はそのものじゃない」と言われたのを記憶しております。今でも「そんなもんでいいんじゃない」と剛胆なその声が聞こえてくるようで本当に寂しいです。

学術面では施設を問わず後進の指導育成に励まれ、多くの診療放射線技師を輩出された功績は非常に大きく尊敬と感謝を捧げます。ここに在りし日の伊勢谷前技師長を偲んで、心から哀悼申し上げ、謹んで御冥福をお祈り致します。

埼玉医科大学総合医療センター 宮野 良介